

平成25年度射水市環境審議会の概要

1 開催日時

平成25年10月23日(水)午後2時～午後4時

2 開催場所

射水市ミライクル館研修室

3 出席者

安田会長、九里副会長、奥委員、浦田委員、竹内委員、久々江委員、放生委員、舟木委員、大代委員、堀田委員、尾山委員、三屋委員、前多委員

4 欠席者

なし

5 配布資料

資料1 富山新港火力発電所石炭1号機リプレイス計画環境影響評価準備書のあらまし

資料2 射水市の環境概要

資料3 - 1 射水市環境基本計画の進捗状況

資料3 - 2 射水市環境基本計画【概要版】

6 議題及び会議結果

(1) 北陸電力(株)富山新港火力発電所リプレイス計画環境影響評価準備書について

・環境影響評価準備書について北陸電力(株)から説明

(2) 射水市の環境概要及び射水市環境基本計画進捗状況について

・環境概要及び環境基本計画進捗状況について事務局から説明

(3) その他

・現地視察の検討

(4) 閉会

7 会議の経過

(1) 北陸電力(株)富山新港火力発電所リブレース計画環境影響評価準備書 について

【委員】

LNGを運ぶ290mの大型船が来るため、バースに棧橋工事をする。その工事に伴いバース海底の掘削をし、周辺海域が汚染されるのでは？周辺海域何メートルまで影響があるのか？

【北陸電力(株)】

10万^mの土砂を掘削する。掘削範囲は航路までは及ばない。グラブ浚渫を行い、バケットで土砂を掘削し、ドーン船へ土砂を運搬する。バケットで土砂を抱える時に濁りを発生しないよう汚濁拡散防止柵を設置して、濁りを周囲に拡散させない。極力濁りをおさえるような施工を行う。汚濁拡散防止柵の効果を計算した結果、施工範囲周辺に留まるという評価をしている。万が一、濁りが港内に広がる場合、施工を中止して対策をとる。

【委員】

海岸線に網を張って、回遊魚を待って漁業をしており、濁りで魚が怖がって湾の外へ出ていくのではないかと心配があったので確認した。

【会長】

できるだけ影響が出ないような対策を取っていただき、それでも影響が出た場合、それなりの対策をしていただくことでよろしいか。

【委員】

浚渫土はどこへ持って行くのか？

石炭2号機は残るので、煙突はなくなる。

石油火力を年間どれくらい使用しているのか？稼働率は？

また、石炭2号機もどれくらい使うのか？

【北陸電力(株)】

浚渫土はすべて発電所の構内に盛土する。北陸電力構内の松田岸壁に乗せて、その周辺で処理する。すべて構内で盛り立てて外へ出さない計画としている。

【北陸電力(株)】

石炭2号機はこの後も大事に運転していくので、煙突は残させていただきたい。石油稼働率は、現状は1号機11%、2号機15%である。将来はLNG70%で、石油は5%程度の予測をしている。

【委員】

石油はほとんど使われない。予備のような感じであり、地元としては石炭は埋蔵量もあるから残してほしい。石油は少ないなら、なくす方向で考えてもらいたい。なぜかと言うと、石油の煙突がものすごく高い。西から見ると橋と煙突がだぶる。景観上からの思いである。

【北陸電力(株)】

石炭火力、石油火力、LNGそれぞれに特性があって、石炭火力は経済性、燃料の供給安定性に優れている。石油は需要変動に即応できる。また、燃料の貯蔵面、調達面で優れている。それぞれの特性を生かして、電気の使用に合わせて、電気をお届けするため、それぞれの運転を継続していきたい。

【会長】

最後にお願ひがある。リンの負荷量は現状と同程度か現状以下とするように運転管理を徹底するという話であるが、よろしくお願ひしたい。

排水処理設備について、旧来のものを使っているが、総合排水処理設備は年々進歩していて、現在では機能性に優れた設備が開発されている。将来、更新されるときに、是非、機能性の高い排水処理設備に交換していただければ、海を守る点でも有効である。法律に触れていないということだけを考えずに、より良い設備があればそういうものを使うという方向で、海を守る姿勢を示していただきたい。

審議会の意見としては、準備書のとおり進めていただくこととする。

(2) 射水市の環境概要及び射水市環境基本計画進捗状況について

【委員】

毎年あまり数値は変わらないが、今後も測定は続けるのか。

【事務局】

監視体制としては測定箇所は多い方が良いが、行政改革の面では経年変化がない場所で数値が良好な場所においては監視精度が落ちない範囲で測定箇所を減らす

方向で考えている。

【委員】

近年の数値が良好な測定地点については、市民の立場としては場所を変えて測定してもらえるとありがたい。

【事務局】

ご意見を聞かせていただきながら検討する。

【委員】

測定月によりどうして大幅に大腸菌群数に差があるのか。

【事務局】

7月は大雨や台風の影響が考えられる。また、検査時において100倍に希釈して測定しており、数値が増加することが考えられる。

【会長】

通常の検査方法は、希釈しないものと10倍のものと100倍のもので検査する。1倍希釈と10倍希釈をしていない可能性がある。また、滅菌していない器具を使用している可能性がある。大腸菌群は目に見えない分、神経を使って測定しないと正確な値が出ない。

ただし、少なく見積ったとしても、し尿による汚染の可能性がある。農業用に利用する分には問題ない。口に入れたり水の中で遊んだりしなければ問題ない。検査方法に問題があるのかもしれないので、測定業者によろしくお願いしたい。

【委員】

不法投棄について、買ったときの気持ちを忘れず、使い終わったときに感謝の気持ちがあれば、ちゃんとリサイクルし、不法投棄されない。

【委員】

不法投棄0件を目指す限りは、どこの場所に不法投棄が多いかというデータはあろうと思うので、草刈りや防護柵や、監視カメラ設置等の多少の予算はかけても対策強化に努めるべき。

【事務局】

試行的に不法投棄の多い場所に監視カメラを設置したところ、その期間は不法投

棄が全く見られなかった。効果的なことには予算を確保し対策を推進したい。

【委員】

国道 8 号線アンダーにも不法投棄が多い。また、森づくりでは具体的に何をしているのか。

【事務局】

射水市では竹林面積が多く、人口林が育ちにくい。また、竹林の間を通過して、猪や熊が里山の家屋に降りてくる。櫛田地区では地元の方が竹林整備をしており、青井谷地区においても竹林整備をしている。市有林においては、ボランティアの方で雑木林の整備や下草刈りをしている。

【委員】

南砺市との交流や小中学校等の清掃ボランティアや市や県のおかげで六渡寺海岸のごみが少なくなった。これからも縦横のつながりを今まで以上に大切にしていかななくてはならない。市として今後の交流のやり方をどのように考えているのか。

【事務局】

今までの海岸漂着ごみの対応は事後対応が中心であったが、海岸だけでなく発生源においても対策をしなければ改善されない。海辺の方だけでなく、平野に住む方や山に住む方、射水市だけでなく、南砺市や小矢部市や県全域を巻き込みながら対応していく。昨年度は、六渡海岸で県内の環境衛生協議会の研修会を行った。今後さまざまな機会を利用して連携を広げていきたい。

【委員】

不法投棄監視員の人数について、一地区に一人ではパトロールにも限界がある。不法投棄監視員を増やせば、もっと不法投棄が少なくなるのでは。

【事務局】

今後の課題として検討する。

【会長】

ごみを出しているのは住民なので、自治会や住民にもっと積極的に呼び掛けてほしい。

【会長】

海域の海王町と海竜町の COD が上がる理由は？何か入るものがあるのか。

【事務局】

A 類型海域ではあるが、完全な解放型海域ではなく半閉鎖性海域のため自然浄化がされにくいことも考えられる。

【会長】

ため池の馬洗池の DO や全窒素、全リンの数値が高い。原因を調べた方がよい。事業所の排水について、自然水域に出す数値（pH）としては高い。しっかりと処理装置を設置すれば低い数値になる。

【副会長】

大気汚染対策として、今後の射水市の交通政策を富山市のコンパクトシティを参考にしながら考えてみては。

エコアクション 2.1 の事業所が 13 から 12 に減っている。目標値に向かってどのような対策をとるのか？経済性のインセンティブを付ける等、射水市の将来に向けての方策は？

【事務局】

これまで市のホームページで呼びかけた。インセンティブとして、市の入札にポイントを与えている。今後は、企業に認定をとる橋渡しとして県と協力しながら広報する。

【副会長】

富山環境財団では認証取得をサポートしており、富山県立大学では 1 月から 2 月に講習会や相談会を無料で行っている。情報提供するので、市からも参加の呼びかけをお願いしたい。

(3) その他

【委員】

現地視察の必要性を感じる。審議会を年 2 回開催しては？

【委員】

地球温暖化計画の期限が切れているので、新たに見直すことで啓発にもなる。

【事務局】

環境審議会は、市長が諮問する案件について審議するということで従前1回であったが、今後、会長と相談しながら検討したい。